

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノ演奏法Ⅳ Piano performance method Ⅳ		2年	後期	金曜日・2時限、3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
音楽表現Ⅰ 音楽表現Ⅱ ピアノ演奏法Ⅰ ピアノ演奏法Ⅱ ピアノレパートリーⅠ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程(幼稚園教諭二種)、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
メンサー華子 藤野理恵子 中沢充恵 西尾幸子		非常勤 講師室	月・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもの感性は、日常での音楽的体験が直接子どもに影響し、子どもが音楽に関心を持って音楽の楽しみを自ら感じ取れるかどうかは、保育者の音楽的感性と指導力である。この授業では、今までに習得したピアノ技能を更に高めるため、積極的に音楽に取り組み、多様な即興表現(簡単なコードネームによる伴奏法の習得)を楽しんで習得することで学生自身が音楽を表現することができる。また、その音楽的な表現力を養って、幅広い音楽活動に対応できるピアノ技術を習得し、保育の場での音楽的活動への展開を学ぶ。				
授業の到達目標				
①基本的なコードネームを理解して、メロディに対する伴奏法を習得することができるようにする。 ②自然や物、音色に親しむ保育活動について考察し、保育における音楽的活動の意義を理解することができるようにする。 ③音楽的活動に積極的に取り組み、伴奏テクニックや弾き歌いの技術を習得することができるようにする。				
授業の方法				
この授業では、担当教員ごとにピアノ技術の習熟度別のクラス分けをし、基本としては個人レッスンとするが、弾き歌いの実践についてはグループ演習とする。指導の際には、各学生の能力に応じた指導を行うため、授業内容は各学生によって異なり、以下には標準的な授業計画を示すこととする。				
学習の成果				
①コードネームを理解して、簡単な伴奏法を即興で弾くことができ、幼児曲のレパートリーを増やすことができる。 ②子どもの保育活動について考察し、音楽的活動にはどんなことが必要なのか理解することができる。 ③保育者としての豊かな音楽的感性を養い、音楽活動の展開をするために必要なピアノ技術を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当者別：各自の教材の選定と課題			
第2回目	コードネームについての理解と演奏法			
第3回目	メロディとコードネームを用いた演奏テクニック			
第4回目	ポピュラー音楽演奏① コードネームを用いて			
第5回目	ポピュラー音楽演奏② コードネーム(ベースライン)を用いて			
第6回目	ポピュラー音楽演奏③ コードネーム(アルペジオ)を用いて			

第7回目	コード進行について	
第8回目	コード進行を用いた即興演奏法①	
第9回目	コード進行を用いた即興演奏法②	
第10回目	幼児曲演習①	
第11回目	幼児曲演習②	
第12回目	試験曲選定とその曲の演奏法	
第13回目	試験曲の個別指導(音楽的表現について)	
第14回目	実技試験(各自発表)	
第15回目	試験曲の講評とこれからの課題(各自)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内での(レッスン)による理解度についても評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容(態度含む)	60%	担当教員全員の前で1曲演奏し、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全ての学生の演奏を採点し、その平均点を評価とする。
その他	10%	曲の進度による評価をする。
教科書と参考図書		
テキスト：進度に応じてブルグミュラー25の練習曲、ソナチネ、ソナタ(全音楽譜出版社)、その他(自由曲)		
履修上の心得・ルール		
毎回、個人に適した曲が課題となり、次回の授業で担当教員にレッスンを受ける。		